

■生理検査科

○平成19年度目標

1. 検査の「質」の維持、向上

- ・検査受入体制を整える
- ・検査技術・知識の向上

〈評 価〉

19年度は年度初めと9月の2度スタッフの変更があったため、業務を覚えるまでの間、長期に渡り検査予約の制限を行うこととなりました。関係部署の方々におかれましては、ご配慮・ご協力いただきましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。

現在では新しいスタッフもほぼ全ての検査をこなせるようになり、またその者がエコー経験者であることも伴って、とび入りでのエコー検査時などは前年度以上に迅速な対応が出来ていると思われま

す。今後は全スタッフが全検査を行えるよう、更に科内での研修を重ねて受入体制を整えたいと思います。

検査技術・知識の向上については、後述にあるように各講習会・研修会への参加を行ってはいけるものの、前年度と比較するとその回数が減少しています。PSG検査による残業で参加予定の変更を余儀なくされるなど予定が組みにくい面もありますが、可能な限り夫々に参加を促して、幅広くまた新しい知識を身に付けるよう努力をしていきたいと考えています。

2. 医療事故の防止

- ・患者さまの取り違えの防止
- ・怪我の防止
- ・事務的ミスの防止

〈評 価〉

19年度のインシデント報告はレベル1のみ5件。(複数人からの報告が1件。よって実質4件)ほかにレベル0が1件。全て前期(4月～9月)に報告されたものです。

大幅にシステム変更をするようなものはなかったものの、検査時の間違いや記録の一部の取り忘れ、また患者の取り違え(台紙の名前の間違い、同入院階・同姓の患者の取り違え)など、ともすればレベル2や3に繋がってしまうものがありました。特に入院患者の取り違えに関しては、電話連絡時および検査室への本人来訪時の2度フルネーム確認を行ったうえで起こったもので、患者さま本人が返事をして認めた場合防ぎようがないという呼称確認における問題点を考えさせられた一件でした。また「入院直後」という情報の少ない時点でのインシデントだったこともあり、その後は各病棟からこのような注意事項の連絡をいただき、また自分達でもイントラで情報収集するなど再発防止に努めています。

3. 患者サービスについて

- ・患者さまへの気配り
- ・情報の提供

〈評 価〉

19年度も検査に関するクレームは特にありませんでした。ほか、言葉遣いなどの接遇面でも特に問題は起きていません。

以前から考えている患者さまへの情報提供ですが、残念ながら19年度も具体的な計画を立てるまでには至りませんでした。患者さまに検査についてより知っていただく、自身に健康に興味を持っていただくためにも、出来るだけ早い時期に何らかの形にしたいと考えています。

○参加した講習会・研修会

- 19年4月7日 日本消化器がん検診学会北海道支部第5回超音波部会
「実践読影会(肝臓編)ーあなたはどう読む?ー」
- 5月30日 第5回わかばセミナー「検査技師が出来る院内感染対策」
- 6月7日 第6回わかばセミナー「心電図の基礎」
- 7月20日 第6回北海道性差医学・医療研究会学術講演会

「性差医学ーメタボリックシンドロームへのアプローチ」

- 21日 第25回北海道甲状腺談話会 「甲状腺疾患の超音波診断とP E I Tの現状」他
22日 第138回北臨技講習会（生理検査部門講習会） 「心電図検査の全て」
11月7日 第164回臨床検査講座 胆道系シリーズVol.1 「胆道系の基礎」
10日 第5回北海道感染症対策セミナー
「インフルエンザ対策 私たちにできることは何か？」
「病院機能評価Ver.5は感染対策に何をもたらしたのか？」他
20年1月24日 第3回札放技札臨技合同企画
「患者さんとのコミュニケーション～そんなこと解っている…が大間違い～」
3月1日 J S S北海道 第8回地方会 「超音波所見の捉え方とレポートの書き方」他

このほか、院内で行われた各委員会主催の研修会（全職員対象のもの）には全て参加しています。

○検査実施件数（別表をご参照ください）

19年も各検査とも前年度までと比べてほぼ同等か増加しており、大幅に減少したものは認められません。

19年度の傾向としては、前年度同様、他院からの手術前精査に関連した負荷心電図検査（マスター2階段法・歩行）が更なる増加をみせています。これに伴い心臓カテーテル検査も増加がみられます。この他、エコー検査や眼底カメラ検査も増加しており、これらはドック受診者増加に伴う影響（腹部エコー・眼底）と、前年度以上に内シャント評価（血管エコー）の要請が増えていることも一因と考えられます。

ドックに関しては、20年度もひと月に集中して予約が入る予定がありますが、よりスムーズに検査を進められるよう関係部署間で現在調整を行っています。

○これからの展望

スタッフの入れ替わりによる影響もほぼ落ち着き、検査の受入体制も戻りましたので、今後はそれを維持しつつ、更なる技術の向上や業務体制の見直し・改善を考えていきたいと思えます。正確・適切な検査データを提供するのはもちろん、患者さまにとってより負担・苦痛の少ない検査を行うよう心掛けていきたいと思えます。

文責 吉田 紀子

	19年4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		20年1月		2月		3月		19年度総計		
	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	
心電図	276	128	172	117	189	96	198	107	186	110	165	94	314	142	169	115	164	107	180	102	173	95	205	115	2391	1328	
負荷心電図マスター	20	2	17	6	19	0	22	0	29	1	19	1	14	1	21	0	20	0	17	0	21	1	19	0	238	12	
トレッドミル	5	4	7	3	7	3	6	2	2	2	2	4	2	0	2	2	3	2	0	0	1	0	1	1	38	23	
ホルター心電図	12	3	23	11	6	8	15	7	12	4	9	6	14	6	9	5	18	11	9	5	16	5	9	8	152	79	
心エコー	39	29	40	41	40	25	38	36	34	37	30	27	28	51	41	42	35	38	22	33	33	27	38	28	418	414	
腹部その他のエコー	25	16	48	28	65	32	80	35	72	34	61	27	47	25	55	28	44	31	41	27	59	34	36	28	633	345	
眼底カメラ	8	2	7	3	15	1	35	4	34	6	23	1	18	4	23	4	23	3	22	3	27	5	28	3	263	39	
肺機能 ルーチン	23	9	36	19	29	11	56	9	39	9	25	9	33	9	21	11	26	7	27	9	37	14	20	12	372	127	
残気量	17	8	31	14	19	10	27	7	16	3	17	8	27	5	13	5	16	4	9	4	13	3	15	9	220	80	
拡散能	18	8	31	14	19	10	26	7	16	3	17	8	27	6	13	5	15	5	8	3	13	3	15	9	218	81	
改善率	0	0	0	1	0	0	2	0	2	0	2	0	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	1
肺機能 TOTAL	23	9	36	19	29	11	56	9	39	9	26	9	33	9	21	11	26	7	27	9	37	14	20	12	373	128	
穿刺		1		1		0		2		1		0		0		0		1		2		3		2		13	
心臓カテーテル		7		7		6		9		6		4		7		1		8		2		6		4		67	
骨密度測定	3	1	8	3	23	4	8	2	13	6	1	1	9	2	6	2	7	2	5	2	5	4	5	3	93	32	
血圧脈波検査	8	1	14	3	23	4	12	3	12	8	6	1	10	2	11	2	11	5	3	5	5	3	10	5	125	42	
合計	454	219	434	271	454	210	525	230	467	230	377	191	545	260	388	222	382	224	343	197	403	203	401	227	5173	2684	
院外ホルター解析	22		22		25		20		19		19		18		17		18		19		22		33		254		
PSG検査	11(12)		9		16		18(19)		11		10		15		10		6(7)		8		12		10		136(139)		

*PSG検査の () は業者担当分を含む数